大会特別規則

平成29年度より実施する

- 交代して一度退いた選手のベースコーチは許される。
- サスペンデッドゲーム(一時停止試合)は、原則として適用しない。やむを得ずサスペンデッドゲームを行う場合は、特別継続試合として行うことがある。
- 試合中・試合に関して
 - ① 試合に関して、審判員に手を掛けた場合は、理由の如何を問わず直ちに退場させる。
 - ② 試合中不穏当な言動があった時は、注意又は退場させることがある。退場を命ぜられた選手は規律委員会の決定がある迄出場停止とする。
- グラドルールについては、別に定める。
- 控審判について
大会運営上、当該審判員のカウント及びルールの間違いには申し出てよいこととする。又、紛争問題にも関与することが出来る。
- 大会運営上都合により、試合途中において塁審が交代することがある。
- 試合開始時の人数について
 - ① 試合の進行に於いて、10名以上の出場を必要とするがグラウンド補助員(ボール拾い要員)1名参加を条件に選手9名の場合でも試合を行う。
グラウンド補助員は、運動の出来る服装で成人に限り、届け出をし許可を必要とする。
 - ② 選手9名の場合でも同一大会一回に限り、試合後「約定書」記載を条件に試合を行う。
 - ③ 尚、何れの場合も相手チーム「棄権」の場合は適用を除外する。
 - ④ 「約定書」の詳細については、別に定める。
- 試合回数・時間制限について
七回戦とし、1時間30分を過ぎたら新しいイニングに入らない。尚、怪我による5分以上の中断は試合時間に含めない。決勝戦については、別に定める。
- 得点差によるコールドゲームを適用する。
四回「10点差」・五回以降「7点差」とする。
- 指名打者(DH)について
壮年部については、指名打者を認める。
- タイブレーク方式(特別延長戦)について
 - ① 七回又は制限時間を越えた終了時に同点の場合、試合を決する為、1回のタイブレーク方式を行う。尚同点の場合は抽選により決める。
 - ② タイブレーク方式は、無死満塁で継続打順とする。
- タイムの制限等について
 - ① 監督又はコーチ等が一試合に投手の所に行ける回数は3回以内とする。
 - ② 捕手又は内野手が一試合に投手の所に行ける回数は3回以内とする。
 - ③ 攻撃側のタイムは一試合に3回以内とする。
 - ④ 尚、何れの場合もタイブレーク方式になった場合は1回とする。
- 試合前のグラウンド整備について
 - ① 第一試合に出場チームは、各3名を試合開始40分前迄に出場し各球場の整備を必ず行うこと。
 - ② 試合終了後は、両チームにおいて整備を必ず行うこと。
 - ③ 不参・遅刻等は、原則として当該チームは棄権したものとみなす。
- ① 塁審は、次により必ず出場すること。
 - 第一試合の塁審は、第二試合の両チームより各1名
 - 第二試合の塁審は、第一試合の勝ちチームより2名
 - 第三試合の塁審は、第四試合の両チームより各1名
 - 第四試合の塁審は、第三試合の勝ちチームより2名
 - ② 第五試合以上行う場合は、試合通知に併記して連絡する。
 - ③ 塁審の出場チームの不参・遅刻等は、大会運営に支障を期すので、試合開始予定時刻の30分前迄に出場し大会本部に届け出ること。不参・遅刻等は、原則として当該チームの試合は不戦負けとする。
- ① 棄権する場合は、前日までに連盟事務所に連絡すること。
● 連盟事務所(市川方) TEL042(662)5763
 - ② 試合当日になって棄権するときは、滝ガ原連盟事務所に連絡すること
● 滝ガ原連盟事務所 TEL 042(691)3845
- 運営に関する規則中の、13項及び特別規則の13・14・15項に違反したときは、理事会の合議により相応の措置を行うものとする。但し、個々の選手の違反は、チームの責任とする。
- 異なったユニフォームでの出場は認めない。著しく異なる場合を除いては、担当審判員の協議により決定する。
- 各部への昇降格については、別に定める資格、条件等によるほか理事会において協議決定する。